

冒頭から暴走 自公が補正予算案強行

給付金は迷走

無責任首相発言クルクル

始まってわずか1週間ばかりの通常国会で、自民・公明は早くも暴走です。国民の7、8割が反対している定額給付金を、13日衆院で採決強行。しかし麻生首相の発言は「一転三転、自民党から離党者、造反者が出るなど、まさに」給付金は迷走金（日本共産党の市田忠義書記局長）という状態です。 田中倫夫記者

補正予算案の審議はわずか3日間。深刻化する不況、大企業の派遣切り…。なぜ、このようなことが相次ぐのか、日本経団連や大企業の責任者、派遣切りにあった労働者



予算委員会、衆院本会議で続けて反対討論した共産党の笠井亮議員。「わずか3日の質疑での採決はあまりにも横暴」「断じて許されない」と抗議しました=13日、衆院本会議

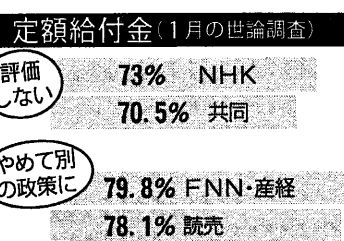
らを呼んでの質疑を野党側が一致して要求しました。ところが、自公はこれを無視し、採決強行。予算委員会や関連委員会には抗議の声に包まれました。与党が暴走すれば首相は「迷走」です。「総理としては若干の

発言の揺れはあった。13日の総務委員会で鳩山邦夫総務相が認めました。高額所得者も定額給付金を受け取るのかどうか。昨年来、政府は所得制限設定を地方自治体に丸投げし、首相自身も高額所得者が給付金を受

け取るのは「さもない」(12月15日の国会答弁)となっていました。ところが、今年になると細田博之・自民党幹事長が「国会議員も辞退せずにもううべきだ」(6日)。すると首相も消費

刺激という点に意義がある。ぜひみなさんに使ってほしい(6日)とあさりの転換しました。迷走してもなおしがみつこのは。給付金はともとは公明党が言いだした「給付付き減税」。自民党幹部らは「連立政権を維持するコストだから仕方がない」といいます。小選挙区で自民党が公明党・創価学会の支援を得るための「公金を使った選挙目当てのパラマキ」(市田氏)なのです。こうしたなか、年明け

のマスコミの世論調査では、不支持率は7割、給付金「反対は7、8割に上りました(別図)。安倍、福田内閣で閣僚を務めていた渡辺喜美議員が自民党を離党する騒ぎも。自民党閣僚経験者は「もう麻生では選挙はできない。だれが代わりがないい」、選挙なしで4回も首相をたらい回しにできない。打つ手がなし」と話します。



与党が採決を強行した本会議で民主、社民は討論にたつたものの採決では退席。国民新党は欠席しました。これに先立つ予算委員会で、民主、社民、国民新党の委員が席を立つたが、堂々と反対討論に立ったのは、日本共産党の笠井亮議員。補正予算採決強行にきびしく抗議しながら、「2兆円をもっと有効に使え」との国民の声を受け止め、給付金は撤回すべきだ」との主張に野党席から大きな拍手がわきました。